

平成 29 年 11 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 29 年度第 9 回

魂に突き刺さるような言葉

塚越参与の司会と川村代表幹事の挨拶を受けて、心に浮かんだことを申し上げます。

「名は体を表す」という言葉がありますが、最近私は、「身は体を表す」と感じます。久しぶりに顔をあわせた知人が、お腹がぷっくり出ていました。会社が順調で利益も出て来ると、どういうわけか社長のお腹が出っ張って来るようです。そうになると、それ以上はなかなか会社は発展しませんから氣をつけましょう。現時点でお腹が出ている人は、是非すらっとした姿勢になるよう努力をされるとよいと思います。

先ほど道場でストレッチをした際、正しい姿勢を練習しました。壁に背中をつけて、まっすぐに立ちます。踵、ふくらはぎ、腰、頭も壁にピタッとつけて、その時、顎が上がってしまいますから顎を軽く引きます。その状態で一步前に出た姿勢が正しい姿勢です。ご自分で、正しい姿勢はどのようなものか判断基準を身に付けるがよい、という話になります。

先ほど塚越さんは、腹何分目くらいで話をされたでしょうか？

(塚越参与) 余裕をもたせて、腹七分くらいです。

そのくらいがちょうどよろしいですね。私は講話をする際、事前に準備をします。十を用意して、そのうちの四くらいで終わると猪瀬理事長に良かったと言って貰えます。用意した十全部を話すと、聞いておられる方はわけが分からなくなります。自分の心もちの中で、七分くらいだと聞いていて多いなと感じるようです。半分を下回るくらいだと拍手が多くなると思いますので、その実践をするように努めております。

私は以前、週に一度くらいのペースで、ブログに思った事や体験した事、考えている事を書いていました。毎日書いていたこともありましたが、とても疲れます。ブログには何人かの人がコメントを書いて下さるわけですが、中には悪質な書込みがあったりして、娘が気が付くと削除していました。たまたま削除されないコメントを見た時にカチンとくる文章があって、ブログをやめたことがあります。きちんと自分の名前を書いて投稿すればよいものを、匿名で出すものは言いたい放題書けるわけです。先日の座間市での事件をみ

でも、見ず知らずの人とやり取りをするのは怖いと思います。その後、ブログを書くのは半月に1回になり、1ヶ月に1回になって、今は書ける時に書くと切り替えました。

今、私がHPで更新しているのは「心に残る言葉」と「ぶらり旅」です。「ぶらり旅」はIB（行き当たりばったり）方式で、家内と毎月1回旅に行っています。その時に撮った写真にコメントをつけて載せています。

「心に残る言葉」は、色々な本を読んで私が良いなと思った心に沁みる文章を紹介しています。先日は、曾野綾子さんの『夫の後始末』という本を紹介しました。ご主人が倒れてから亡くなるまで、妻である曾野綾子さんがどういう事を考え、どう対処したかが書かれているのですが、その中でなるほどの感じたことがありました。

曾野綾子さんは聖路加病院の日野原重明先生と対談をしたことがあって、その帰りの車の中で先生が教えてくれたことがとても印象に残ったそうです。日野原先生は、人間の臨終に際してやってはいけない事が3つある。それは胃瘻、気管切開、多量の点滴による延命だ。胃瘻は終りの見えない戦いを開始することになる。気管切開は、最後に家族と語る機能を失わせるので絶対にしてはいけない。二十四時間、点滴を続けているような過剰な輸液は、体の細胞を溺死体のようにする。痰は増えるし、苦しませるだけだ・・・と教えてくださったと書いています。そして、曾野綾子さんは病に倒れた御主人と話をして延命治療はしなかったそうです。

東京フォーラムの会員のお医者さんに話を聞くと、患者さんやその家族は、最初はだいたい延命治療はしないと考えているにもかかわらず、土壇場になると延命治療を希望するケースが多いそうです。延命治療に関してはよくよく考えて、できれば事前に話し合っておくことも必要だと感じます。

私の体験に置き換えますと、母親が97歳で亡くなったのですが、心臓が丈夫だったので、亡くなるまで苦しそうではありましたが頑張って心臓が動いていました。母親は心臓が丈夫だったからな…と書いていたのですが、今考えると何のことはない、ずっと点滴をして栄養分が身体に入っているのですから、心臓だけが生かされていたのです。お医者さんは当たり前の治療法として点滴をしてくれていた。私も疑問に思わずにしてもらっていた。けれども分かっていたら、無理な点滴は止めさせられたのではないかと、それほど苦しい思いをさせないで済んだのではないかと反省をしています。

ただ、気管切開はしなかったのがよかったと思っています。亡くなる1週くらい前からもう声が出せませんが、91歳の妹が見舞いに来てくれて帰り際、絞り出すように「良かった」と声を出しました。色々なことが混ざっての「良かった」だったのでしょ。そ

の夜、亡くなりました。もし気管切開をしていたら、母親の最後の言葉も聞けませんでした。

母親の場合、口から食べ物を入れている間は元気でした。口から食べられなくなったら終わりだと周りからも聞いていましたので、お医者さんにも言われましたが、胃瘻はしませんでした。その代りに点滴をしたわけですが、それも本人を苦しめたのかなと思います。最後に辛い苦しい思いをしないで寿命をまっとうする方法について、やはり自分自身に置き換えて考えると良いと感じます。

ということで「心に残る言葉」は、私の魂にグサッと突き刺さってきたものを紹介しています。木内信胤先生は、魂に突き刺さるような言葉を味わい発信しなさい、と言っておられます。ですから司会者の方にも代表幹事さんにも、魂につきささるような言葉を出す努力をして戴くようお願い申し上げます。

先ほど、ぶらり旅はI B方式で行くと申しました。最近はちょっと変わってきて、テーマを作っています。幾つかご紹介します。

9月に100年経営研究機構という団体から、陽明学の視点で100年経営を続けるヒントを下さいと頼まれて講話を致しました。準備として、100年以上続いている会社のトップに会って、なぜ100年続いたのか、今後はどうしたいと考えているか・・・等々の話を聞きました。その続きで、10月は石川県にある法師旅館に取材を兼ねて行って来ました。法師旅館は創業1300年を迎える長寿企業です。すぐそばに1300年経っている那谷寺というお寺があって、そこを開いたお坊さんが弟子に温泉を守らせたのが始まりだそうです。46代目というご当主に話を伺いましたら、創業の言い伝えを大事にされていました。具体的には、女性に対しては<火を出すな>、男性は<自ら学べ>という家訓が伝わっていました。

今月は成田山新勝寺に行き、参道にある米屋さんという和菓子屋に寄りました。ここも明治の創業で100年以上経っています。行って見ましたら、その会社の歴史が目で見分けるように、初代の写真や業績を集めて資料館が出来ていました。

柴又帝釈天の題経寺にも行きました。柴又は時々行きますが、やはり題経寺の彫刻は素晴らしいと話をしながら帰ってきましたら、今日の新聞に、題経寺と門前町が国の重要文化景観に選定されたという記事が出ていました。特に、題経寺の庭は私が今まで見てきた中でもトップレベルに入っていると思っています。

また、先日はイノチオグループという農業の最先端企業に行ってきました。以前から私は、日本で食べ物がなくなる時がくるから、それに備えて自給自足をして下さいと言ってきます。昨年には農業法人を創りましたから、関係者で日本で最先端の農業を展開してい

る企業を見学したいということで行って来ました。行って驚いたのは、農地ではありませんで、まるで大規模工場でした。土から栄養分をとるのではなく、溶液から栄養分をとって、一本の茎から沢山のトマトが生っていました。この会社も 107 年経っているようで、社内には創業者の写真が飾ってありましたし、創業時の思いや地域と協力しながらどう歩んできたかといった歴史が分かるミュージアムがありました。

来月は沖永良部島・奄美大島・徳之島に行つて来ます。私は後々、西郷隆盛の本を上梓するつもりですので、西郷隆盛が遠島を申しつけられて罪人として送られた島々を見たいと思っています。

紹介書籍

今日ご紹介する本は、森信三先生の『修身教授録』（致知出版社）です。この本は、先生が昭和 12 年に現在の大阪教育大学で森先生が修身科の講義をされた、それを前に座っている学生に筆記させたものです。森信三先生は文科省が決めた教科書を使わないで、自分の考え方を生徒に伝えようとしてしました。文科省に目をつけられるとクビですから、それを覚悟で講義をされたわけです。人間が生きていく上で必要なものは何か、人としてどうやって自分を磨くか・・・等々について学生達に語った言葉ですが、よく読むと、はっと気づくような言葉が沢山入っています。どうぞお読み戴くとよろしいでしょう。

恒例の質問

来月は師走ですから、少し早いですが、今年 1 年を振り返ってお考え下さい。

○ 今年は、嘘をつくことが少なかった方

皆さん手が挙がりましたからハードルを上げて、今年は嘘をまるでつかなかった方

・・・さすがにこれは難しいですね。やはり、ほどほどでいきましょう。

○ 今年は、良い事が多かったなと思う方

では、悪い事が多かったと思う方

・・・おかしなもので、凄く悪い事は続かないものです。たとえ人生を縛るような悪い事が起きても、1 回か 2 回です。良い事は以外と続きます。良い事が年に 1 回か 2 回ということはまずありません。ですから数ではなく、深さだと感じます。良い事があつたら、自分の心を支えてくれるような良い言葉を心にしっかり刻み込むことです。また、悪い事が起きた時も、自分の心を支えてくれる言葉を必死に刻み込むことです。

私の場合で申しますと、「心の留め金がカチッとはずれる」という言葉は自分の体験から生まれた言葉で、大変なことが起きた時には心の留め金がカチッとはずれて、そこからエ

エネルギーが噴出していました。今でもそうです。自分の全エネルギーを放出してこの問題に立ち向かうのだ！ という時、心の留め金がカチッとはずれ、頭が高速回転して次々に良いアイデアが生まれ、打つ手が出て来ます。「心の留め金がカチッとはずれる」という言葉は、私の体験から生まれた後々良い事に繋がった台詞として自分の心に刻み込まれました。

もう一つは、「将らず、迎えず、応じて蔵せず」という言葉です。3年前、私は運転をしている時にふっとあの世に連れて行かれそうになる感覚に何度もなりました。そうすると路肩に車を停めて、この言葉を呪文のように唱えていました。私にとってこの言葉は、マイナスの時、何とか命をこの世に留めるための言葉として、自分自身の心に刻み込まれています。

○ 今年は、有難うと言いや有難うと言われることが多かった方

努力をしないと有難うとは言われませんか、有難うと言われることが少ないと思ったなら、何か勤労奉仕をするとよろしいでしょう。

○ 今年、健康法をずっと実践している方

健康法は継続実践がポイントです。

○ 昨晚寝る時に、とても楽しいことを思って寝た方

これは、お風呂に入るようなものだと思って下さい。一日、俗世間と付き合いと、身体に垢がつくのと同じに心にも垢がつきます。お風呂に入れば身体の垢は取れますが、心についた垢は取れません。寝る前にとっても楽しい事を思って寝ると、心の垢が取れます。中村天風先生も安岡正篤先生も似たようなことを言っておられますし、私も実際にそう感じます。どうぞ実践してみてください。

○ 今年は、自分磨きをよくやったと思う方

何でもよいですから、自分で考えて進めて戴くようお願い致します。

ギリギリの状況で「足るを知る」を味わう

では、基本哲学の「知足」を申します。今日のテーマは判断基準ですから、判断基準をどうやって身に付けるかを意識してお話致します。

自分自身で判断ができなくなった時、どうしたらよいか分からなくなった時には「足るを知る」で判断をすると良い、そう考えます。つまり、困った時は完璧を求めないことです。最高に素晴らしい結論は求めないでほどほどのところ、ここらへんで致し方がないなと思うところで止めておく。それは、後で思うとそういう事になってくると思います。出来る限りのことを一所懸命やって、やり抜いて、これ以上は出来ないと周りも見るし自分

でも思う。けれども心の奥には、「まだ足りない」「もっと何とかなるはずだ」と思う気持ちが誰しも必ず残っています。まだ何とかなるはずだと思っても、時間は有限ですから、どうにもならないことがあります。その時は自分を責めるのではなく、こういうことも世の中にはあるのだから仕方がない、なぜこういうことが起きるのか…と突き詰めて考える。その時のキーワードが「ほどほど」です。意識して、理性でほどほどにしておこうと思うことです。

人間ギリギリの状況になると、たいがい自分自身を責める気持ちが出ますから、自分、或いは周りの人を救う言葉として、私は「将らず、迎えず、応じて蔵せず」という言葉が心に残ります。それを簡単に言うと、ほどほどが良いということになります。

自分が困ってどうにもならない時の判断基準は「ほどほど」です。実際にギリギリの状況になった時、「ほどほど」がピンとこないかもしれません。その時には「足るを知る」、「人間としての分を知る」、そこで止めておくとうよろしいでしょう。これは理性です。

中村天風先生曰く、欲望は捨てることなど出来ません。人間は欲があるからこれだけ発展してきたわけです。しかし欲には、出来る欲と出来ない欲がある。叶う欲と叶わぬ欲があります。例えば、美味しいものを食べたいと思う。普通にご飯を食べられる人には叶う欲ですが、食事が喉を通らなくなってしまった人には叶わぬ欲になります。ですから自分自身が五体満足という前提で叶う欲は応援するがよろしい。けれども叶わぬ欲があるということを承知した上で、「足るを知る」という言葉を味わうがよかろうと思います。ギリギリでどうにもならない状況になった時、人間としての分（限度・限界）をわきまえて、「足るを知る」という言葉を味わうがよい。これはギリギリの状況に置かれた人は、そう感じる話で、ギリギリでない時は分かりません。

私のこの話を聞いて、分かる人がいて当たり前ですし、分からない人がいて当たり前です。人間はそういう状況にならなければ分からないものがありますから、分からなければ分からないで、そんなことを言っていたな…くらいで多少耳の奥に留めていけばよいと思います。

学や禄其の中に在り

本日は衛霊公篇 29～31 です。では、解説を致します。

【二九】子曰く、しいわ 過あやまちて改あらためざる、是を過これちと謂あやまう。

孔子が言うには、誤って改めない。これを過ちと言うのだ。

世の中、不倫や浮気の話が多いですが、失敗をしたら、直そうと思って改めればよいのです。改めないから過ちと言うのです。渋澤栄一さんが論語を好きだったのは、こういうところでしょう。女性に関しては過ちの連続でしたが、それでもいっこうに直りませんでした。

浮気をして改めたなら過ちではない・・・と、世の男性はホッとする文章だと思って読んでください。女性は「これはおかしいではないか」と言ってもよいでしょう。判断するのはご自由ですから、そのように理解して下さい。

【三〇】子曰く、吾嘗て終日食わず、終夜寝ねず、以て思う。益無し。学ぶに如かざるなり。

孔子が言うには、かつて私は一生懸命勉強して、一日中食べずに一晩中寝ずに、ひたすら思索を深めた。しかし何も効果がなかった。書物で学び、師に教わるには及ばなかった。

本を読んで学びなさい。周りの人はみな師匠だと思って学びなさいと言っています。学ぶとは「真似ぶ」ですから、本に書いてあるもの、師匠のやっていることみて真似をするということです。後々、朱子は必死になって机に向かって勉強し、一所懸命思索して、自分のお弟子さんたちにも、「悟れないのは思い方が足りない。もっと考え、もっと勉強なさい・・・」と、朱子学はそれ一辺倒でいったわけです。王陽明は、一所懸命朱子学を学んだけれども、どうにも効果がなかった。朱子学では悟れない、自分のやり方をしようと思って、朱子学に対抗して陽明学を確立しました。陽明学は、考えるだけでなく行動しなさいという教えです。行動して、また考える。動くことをベースにもってきました。日本では中江藤樹が王陽明と同じ体験をして、陽明学の本を読み、これだ！と納得して陽明学を究明していきました。そして日本陽明学の祖と言われるようになったわけです。

ですからここは、考えるだけではなくて、一見は百聞に如かずで、実地体験をしない限り自分の血肉にはならないと考えればよろしいでしょう。

【三一】子曰く、君子は道を謀りて食を謀らず。耕すや餒其の中に在り。学や禄其の中に在り。君子は道を憂えて、貧を憂えず。

孔子が言うには、君子は人の道を会得しようとするけれども、それによって収入をこれだけ得たいとは思わない。農夫が一所懸命耕しても、飢饉が生じれば飢えることがあるのだ。学問が身に付けば、自然と社会から求められるようになって食べていくことが出来る。君子は人としての道が身に付かないことを気にするが、貧乏は気にしない。

「学や禄其の中に在り」・・・孔子の門下生は孔子のもとで学んで大臣や官僚の職に就いて収入を得たいと思って、就活で弟子入りするわけです。そういう弟子たちに孔子が、「学問が一人前に出来るようになれば引く手数多で売れていくのだから、一生懸命勉強しなさい」と言っていると捉えて下さい。

今、大学生の就職内定率は75%という数字が出ています。シムックスの話聞いても、大学側の話聞いても、今の学生は給料や休日数といった待遇面ばかりを優先して就職しようとするけれども、これはおかしいのではないか。自分を一人前にすれば、自然とそれなりのものがついて来るのだ・・・と、こういう論語を学校で教えればよいと思います。

孔子は、大人物は自分のやりたい事、身に付けたい事を一所懸命やるのであって、貧乏することは気にしないと言っていますが、これも行き過ぎると苦しいだろうと思います。石川啄木の歌に「はたらけど はたらけど我が暮らし楽にならざり ちっと手を見る」とあります。

一方、人生で収入はこれくらい欲しいと思って、それが達成された後はどうするのでしょうか。天風先生がアメリカのロックフェラーに会った時の話です。彼はお金がいくらあるか分からないと言っていた。奥様は貴金属を山のように持っていたけれど、もう興味がないと言っていたそうです。しかし、それほどの大富豪でも、どうすれば財産がもっと殖やせるのかと天風先生に聞いたそうです。そういう人が貧乏になったらどうなるのかなという気が致します。

マスコミは判断基準を示すべき

では時事評論に参ります。本日のテーマ判断基準をベースにします。今朝の読売新聞を見て、判断基準という点で気になったものを申し上げます。

・年金課税 改正限定的か・・・「高齢であることを理由に、給与所得者より寛大な控除があるのは公平と言えない」と解説があります。高齢者でもまだ稼いでいて給料をもらっている人達があります。年金をもらわなくても暮らしていける高齢者は、（今現在でも高齢者の高額所得者は年金をカットされています）年金をもっと減らすべきで、それが公平

である・・・という内容です。これを読んだ時、私はとても違和感を感じました。新聞は世論を誘導しています。なぜなら、こういう事を書く新聞社の判断基準は、「世の中は公平であるのが良い。不公平は良くない」という主張がもろに出ています。木内信胤語録にある台詞ですが、「公平が良いと思うのはよくない」と書いてあります。公平が当たり前だと思っただけではいけない。世の中は不平等・不公平のかたまりです。全世界のうち、公平であるという点で最も共産主義の理想が達成できている国家は日本です。公平であることは良くないと木内先生は言っておられるし、私もそう思っています。

年をとっても沢山お金が入る仕組みを作って、収入がある人はいます。そういう人は、自分の意志で寄付をすればよいのです。国が意見も聞かず、勝手に高額所得者の懐に手を突っ込んでお金を抜き取るようなことをしてはいけません。私の母親が97歳で亡くなりましたが、年金は月3万円くらいでした。しかしその中から問答無用で介護保険が引かれていました。国は、高額所得者の高齢者からはどんどん税金をとるべきだと言いながら、1ヶ月の収入が3万円の人からも搾取しているのです。この国家は何なのだ！ と思いましたね。

それから税金を滞納したら、罰則として高利貸以上に高い金利にして税金を巻上げようとしています。出来なければ、差し押さえをします。やはりこの国はおかしいですね。

もう一つ同じ新聞に、「低所得層の税金を軽減する」という記事がありました。不思議なことに、低所得者、中所得者、高所得者とありますが、いくらとは書いてありません。色々な新聞をみても、低所得者とは年収いくらなのか明確に断言しているものは一切ありません。以前は400万でした。それが300万になり、今は200万円未満を低所得層だとアドバルーンが上がっています。200万以上が中所得者となります。この記事では1000万を超えると高額所得者と言っていますが、他の新聞では896万円とか、980万と線引きしてあったりします。おかしい現象です。政府は金額をバラバラ出して、皆が反発しないところでおさえようとしています。これも誘導です。

ということで新聞を読む時、メディアを見る時は、これは世論を誘導しているなど見抜く眼力が要ります。

・日産「38年前から不正」・・・日産が新車の無資格検査問題について国交省に提出した最終報告書で、不正は38年前から行われた可能性があったという内容です。先ほどの論語「過ちて改めざる、是を過ちと謂う」から言うと、この人達は過っていることを気がつかないで当たり前だと思ってやっていた。過ちだと気づいたのだから、反省して直せばよいのです。ところが、これだけ長い間悪い事をしていたのはけしからん！ と叩いていま

す。その判断基準はおかしいと思います。間違っただと思ったら、すみませんと謝ってやり直すればよいのです。

ところがタカタは反省しませんでした。したがって倒産という道を歩んだわけです。商工中金の不正融資問題では、上の人間がどんどん首を切られています。これも同じ話で、過ちて直さないから叩かれてもおかしくはないと思っています。

過ったと思ったら、直せばよいのです。直さない企業が日本国中に溢れています。本来、新聞やメディアは判断基準を書くべきなのです。世論を誘導すべきではない。一人ひとりが判断する基準はこうだ、過去の経緯はこうだと書くべきであって、誘導する馬鹿があるかと思っています。

お時間が参りました。干支の話を少し申し上げます。来年の干支は「戊戌」（ぼじゅつ）です。「戌」は内憂外患、「戌」は滅茶苦茶に乱れるという意味です。来年は、とても酷い年です。色々な問題が滅茶苦茶に表面化してきます。安倍さんが一強で生き残っているようであれば、何とかオリンピックまでもたせようとするでしょうが、オリンピックが出来るか出来ないかは五分五分だと思っています。オリンピックの前に戦争が始まれば開催されません。大きな自然災害や事件が起きれば開催されません。何もなく滅茶苦茶で続いていけばオリンピックは開かれるでしょうが、終わった後は世界的に経済から政治からどんどん悪くなる。日本は奈落の底に落ちていく、そういう時期になるとと思っています。ではどうすればよいか・・・これについては来月お話致します。